

第7回「ふくまる夢たまごセミナー」

日 時 1月14日(金) 18:00~19:00

内 容 先輩に学ぶ

講師 池田市立石橋小学校 教諭 山中 勇輝 氏

池田市立五月丘小学校 教諭 曾根隆太郎 氏

池田市立ほそごう学園 教諭 曾根 佑美 氏

※オンラインで実施

今回のセミナーでは、市立小・義務教育学校の教諭を講師に招き、初任時の戸惑いや不安、苦労したことなど貴重な経験を語っていただきました。4月から教壇に立つ予定の塾生にとっては、教師としての使命を再認識すると同時に不安が解消されたのではないのでしょうか。



講師の皆さん

(左から)

山中勇輝先生、曾根隆太郎先生、
曾根佑美先生

《担当する主な校務分掌について教えてください。》

【山中】私は研究部に所属しています。主に学校目標に対して授業をどうつくっていくかを決めています。また、研究発表会の案内を朝礼時にしています。

【曾根(隆)】私は体育部に所属しています。体育部は主に運動会、マラソン大会、夏のプール運営などに携わっています。

【曾根(佑)】私は生活部です。生活部の仕事は多岐にわたりますが、担当しているのは主に三つです。一つ目は掃除関係です。大掃除の時間の割り振りや掃除道具のセットをしています。二つ目が後期課程(中学校)の部活動場所の調整です。三つ目は生徒会活動で生徒会費の管理です。

《4月、着任早々戸惑ったことはありますか。》

【曾根(佑)】服装です。先輩の先生から1週間はスーツのほうがいいよって聞いていたので、様子を見ながら徐々に変えていきました。

【曾根(隆)】私は最初の挨拶で何を言うか考えていませんでした。「右も左もわかりませんが・・・」というようなことを言いましたが、その後、こちらから話しかけないとコミュニケーションが広がりませんでした。私は誰にでも話しかけるタイプなので何とかかなりでしたが、引き出しのある自己紹介をしておけば、先生方と馴染むのに時間がかからなくてよかったですと思います。

【山中】教室内のレイアウトに悩みました。教卓の場所は決められているものだと思っていましたが、現任校では担任が自由に決めることになっていました。教卓がなく長机を使っている教室があるなど、どれがいいのか分からなくてすごく悩みました。

《クラスづくりで心掛けていることは何ですか。》

【山中】私は、話す聞くの切り替えを心掛けています。3年生を担当していますが、ほかの子が発言しているのに自分がしゃべってしまう子が多かったので、発表しているときは静かに聞くことや言いたいことがあれば手を挙げるというルールを徹底しています。

【曾根(隆)】こちらから指示しなくても自分たちで考えて動くことができるように、言葉かけに気を付けています。子ども達に考えさせるために、こちらから何も言わないことが多く、子どもから動きや意見が出てくるのを待ったりします。

【曾根(佑)】生徒も私も物事を先入観で決めつけてしまうところがあるので、とりあえず「なぜ？」と思ったり聞いたりすることを心掛けていますし、生徒にも伝えています。

《授業づくりで心掛けていることを聞かせてください。》

【曾根(佑)】二つあります。一つは受ける側(生徒)がどんな状態か把握することです。例えば、持久走の前後の授業では、生徒が浮足立って授業に集中できず、だらだらした1時間になってしまいます。二つ目は、どんな生徒でも参加できる場面をつくることです。また、個人で参加なのか、グループで参加なのか、みんなで参加なのかなど、参加の形を考えています。

【曾根(隆)】子ども同士が対話する授業を心掛けています。これには理由がありまして、私自身が話してしまう性格で、どうしても教師と子どものキャッ

チボールが多くなってしまいます。子ども同士で話し合っている方が、より子どもが生き生きとし、子ども達にとっては理解しやすいのではないかと感じています。

【山中】私も対話を大事にしたいなと思っています。よく言われるのですが、自分と子どもが1対1になってしまうことが多いです。子どもから来たボールを他の子に投げ皆を巻き込んで全体の活動にすると、参加していない子が参加できるようになるという話を聞いたので、授業では全員で対話できるように考えながら進めています。

その後、「4月に向けて準備しておいたら役に立つ物ベスト3」「一人一台タブレット端末が効果的だと感じる場面」「対話的な深い学びで難しいと感じるところ」など授業改善につながる話題へと広がっていきました。

最後に塾生からの「休みの日の過ごし方」「生徒との距離感の取り方」「4月までに準備しておくこと」「学生時代に経験しておいた方が良いこと」等の質問に、先輩教員、指導主事、アドバイザーそれぞれの立場から回答・助言いただいてセミナーを終了しました。

【塾生の感想より】

○クラスづくりや子どもとの関わりなどの場面で、教師として自分はどのようなことを大切にしたいかという軸を持つことで、しっかりと対応していくことができるということが分かりました。4月から働き始めるまでに、しっかりと自分の軸について見つめなおしたいと思います。

○どんなクラスをつくりたいのか、どんな授業をつくりたいのかをしっかりと考え、自分の芯を持てるようになりたいと思いました。子ども達が主体となるクラス・授業にできるよう、現場実習で学んでいることを踏まえ学びを深めていきたいと思います。

○先輩方は、どの質問に対しても自分の考えをお話しされていました。特に「自分にはこういうところがあるから、こうしていきたい」とお話しされていたことが印象に残りました。自分自身を客観的に分析して、めざしたい教師像を追求している姿から、私自身もそのような学び続ける成長し続ける教員でありたいと

感じました。

○個人的に大切にしたいと感じたのは「子どもの主体性を育てる」ことです。現場実習では、子どもの行動を待たずに手伝ってしまったり余計なことをしたりすることがありました。子どもに任せる範囲が大きいほど教師の指導力が問われるという話を聞くので、スキルも経験もない私に何ができるかということ働きながら見つけていきたいと思いました。